はしがき

この本は、図書館と本屋さんが大好きな人に読んでもらいたい本です。上梓した理由は二つあります。一つは、これ以上、まちから本屋さんがなくならないことを祈って。もう一つは、図書館をまだ一度も使ったことのない人に、図書館サービスを少しでも知ってほしいからです。

ところで、図書館と本屋さんの違いって、わかりますか。そんなもの知っているよ、とお叱りを受けるかもしれません。でも、本当にわかっているでしょうか。なぜこんなことを冒頭に書いたかというと、図書館を使っている人は、実はそれほど多くないのです。嘘だ、と思われる方もいるでしょうね。確かに公共施設の中で、図書館はダントツに利用が多い施設であることは間違いありません。駅前のアクセスの良い、資料の充実した、しかも新設されたばかりの大きな図書館ともなれば、館内は終日、人で溢れています。

でも、その多くはリピーターです。要は、利用する人は頻繁に使いますが、使わない（使う

必要のない）人は使わない、二極化した典型的な施設と言えます。もちろん、市区町村によって違いますが、市民の何割が図書館利用カードを持っているでしょうか。4～5割といったところが平均と言えます。そのうち、実際に1年に1回以上、図書館を利用している人の割合はさらに減ります。市民の2～3割程度だと思います。市民アンケートを実施して、図書館を使ったことのない人に、その理由を尋ねると、「図書館の場所がわからない」という回答すらあるのです。

全国の図書館員は、図書館サービス、図書館員の仕事を、ちゃんと知ってほしい、と日々、工夫を凝らし、知恵を絞り頑張っています。でも、なかなか届かないなぁ、と悩んでいます。

図書館の棚が魅力あるものに見えないから図書館を使わない、という声もよく聞きます。事実、私がその一人でありました。また、図書館が実施する利用者アンケートの資料に関する質問に、「専門書が少ない」「読みたい本がない」という回答が多いのは、いずこの図書館も同じです。換言すれば、コレクション（蔵書）に満足していない、ということではないでしょうか。

ならば、図書館のコレクションについて考えてみよう。そして、図書館サービスの在り方、書店と図書館の関係、ひいては出版文化も考えてみよう、というのがこの本の狙いです。

一言で、読者を主体に書店と図書館の違いを言えば、書店は本を買うところ、一方、図書館

は本を読んだり借りたりするところと思いがちですが、それだけではありません。図書館は本を保存するところでもあるのです。この仕事はとても大切なことなのです。だから、自ずと書店の棚に並ぶ本と、図書館の棚に並ぶ本には違いがあるのです。いや、違っていなければならないのです。そんな両者の役割を考えたいのです。考えるとはいっても、高尚な論考は期待しないでください。この本は、図書館関係者だけではなく、関係者以外の方、図書館を使ったことのない方にも読んでいただきたく編んだものです。

公共図書館はどのようにして本を選んでいるのか。誰が選んでいるのか。購入費用はいくらなのか。一般の読者には謎だらけかもしれません。

まず、本の選書方法は、契約している本の納入業者の発行する書誌情報誌からの選択、書店の店頭での購入、書店や出版社がセレクトした現物からの選択、書評等を参考にした選択などさまざまです。もちろん、自治体の会計処理の違いや予算の多寡にも依ります。日々の出版情報に絶えず関心・注意を払っているのは言うまでもありません。

次に誰が選んでいるのか。それは図書館員の選書担当が行うところもあれば、全職員が選書に当たる図書館もあります。

さらに、その購入費用はどのくらいあるのか。現在、約３２５０館ある公共図書館の１館当

たりの資料費予算は８７８万円余。20年前の約6割と減少しています。これは資料費ですから、雑誌や新聞の購入費用も含んでいますので、本の購入費用はそれらを差し引いた額となります。この予算額を多いと思うか少ないと思うか。読者によってさまざまな感想をもたれることでしょう。

この本は、選書方法や会計の仕組みをお知らせするものではありません。図書館員は誰もが読者に本を届けたいと思い本を選び、棚をつくっています。でも、現実には、施設や購入予算など、さまざまな制約があります。図書館には資料収集方針なるものもあります。この本は、選書論などという高尚なものではありません。こんな棚をつくった、またはつくってみたい、という気持ちを綴ったものです。図書館員には、コレクションづくりのひとつの考え方として、図書館利用者には、司書の棚づくりの思いが伝わればいいな、と願っています。

ちょっとマニアックな図書館コレクション談義　目　次

はしがき……i

第Ⅰ章　図書館の選書をあらためて考えてみました

図書館は無料貸本屋なのでしょうか……2
図書館員の出版流通への関心を考える……9
図書館の公共性を考える……12
図書館の予算でどのくらいの本が買えるのか……15
図書館の選書を考える……20
図書館の選書方針を考える……24

第Ⅱ章　やっぱり、図書館員は本が好き

はじめに …… 32

髙橋　将人

旅はまだ終わらない …… 34
大学受験の〝参考書〟は図書館がショーケース …… 39
〝将棋〟にも〝囲碁〟にも〝チェス〟にもドラマがある …… 46
〝男の粋（すい）〟には理由がある …… 53
あなたの時間の使い方は有意義ですか？ …… 59

宮崎　篤子

こんな本で調べたい …… 66
「スポーツ」×「読書」＝∞（無限大）？ …… 71
あきらめない、がんばれる。――病気になったら図書館へ …… 76
にぎやかに、手で話して。 …… 83

ヒーローの本はどこですか？……89

下吹越かおる

郷土愛に触れる……96
図書館好きのための図書館の棚……98
おはなしを届ける方々を支えたい……100
あなたの知りたい、を叶えたい……102
自分のルーツを知る旅へのいざない……105
共に育て合いましょ、子どもの未来……108
本で満たされる大人な時間……110
指宿紬をＰＲできる図書館に……113

大林　正智

ザ・バンド in 図書館……116
マニアック！　幻想文学……119

きのこ先生のこと……123
沖縄棚から日本が見える……128
ビール・ビール・ビール……132
街の豊かさ、美しさ……135
「橋を渡りたいわ」と彼女は言った……139

内野　安彦

図書館で酔ってみたい……146
自動車文化を考える棚……151
文藝別冊「KAWADE夢ムック」の幸せ……156
おわりに……163